

文化・芸術

原画名：ヤン・ファン・エイク
「アルノルフイーニ夫妻の
肖像」(部分)

板、油彩 29・0センチ×16・0センチ

渡邊郁夫

あまりにも有名なファン・エイクの作品の部分模写です。「有名な」と書きましたが、岸田劉生もそのファンの一人でした。劉生の日記(1919年12月)から、色刷りの複製図版を手に入れ、部屋に飾っていたことが分かります。ちょうどまな娘をモデルにした一連の麗子像を描いていた時期です。

とはいえ劉生の時代には、技法の深い部分までは想像もできなかったことでしょう。油彩画という技法は、このファン・エイクに至って完成したといわれています。完璧といえるほどの徹底した写実表現、そして画面の堅牢(げんろう)さ、輝きがどこから生まれるのか。日本において材料、技法にわたって研究するようになったのは、この50年ほどのことです。模写をした渡邊さんが所長を務めている「修復研究所21」の初代代表で、東京芸術大学名誉教授・歌田真介氏(1934年生まれ)の世代からでしょう。現在でも、修復や模写を通じて、油彩画の研究が進められているのです。

(田中)

《名画の扉》

大川美術館企画展から

